

# 6 泌尿器感染症における漢方薬の役割

## (第2報)

帝京大学医学部 泌尿器科

**重村 克巳**

泌尿器科疾患において、特に尿路性器感染症などの感染症の領域では、急性ならびに慢性の炎症があり、特に後者のマネジメントにおいては近年漢方薬を使用する頻度は以前より増加している傾向にある。さらに漢方薬の特性上、それらに伴う疲労感や下腹部違和感・不快感ならびに排尿に関連する症状、すなわち、尿意切迫感、頻尿や排尿困難、残尿感などの諸症状は時に抗菌薬のみでは改善しない症例が多く存在する。我々は以前から、これらの中でも特に慢性膀胱炎や慢性前立腺炎において、すなわち慢性尿路性器感染症においての症状である、慢性的な疲労感、排尿時違和感、会陰部違和感、下腹部不快感などの諸症状に対して補中益気湯、清心連子飲などを使用し、一定の効果を見てきた。またときに治療に難渋することが多い慢性前立腺炎に対しては、上記薬剤に加えて竜胆瀉肝湯などを使用し、膿性分泌物漏出の消失など、一定の効果も見てきた。今回は、前回に引き続き、第二報として、最近の症例の解説も交えながら発表させていただきます。